

2022年度 事業報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人きょうと介護保険にかかわる会

1. 特定非営利活動の概要

2022年度は、特定非営利活動法人きょうと介護保険にかかわる会（以下「かかわる会」という）の理念・目的を達成するため、以下の活動を行いました。

- (1) オンブズマン養成事業では、基礎的なものから専門性の高いものまで幅広くテーマを選び、年間8回の研修会を実施しました。また、昨年度に引き続き「京都市地域包括支援センター実態調査」に関連した研修にも取り組みました。
- (2) 介護・福祉サービス提供事業者の質の向上と事業の発展をめざした「介護・福祉サービス第三者評価事業」では、前年度に比べて11件増、25件の評価活動を行いました。
- (3) 広報・啓発事業では、全8ページの会報を隔月で6回発行しました。活動報告や介護保険関連の情報、会員の投稿など内容の充実をはかるとともに、配布先の拡充もめざしました。
また、メーリングリストを整備することで、会員に最新の介護関連情報をメール配信できるようになりました。
- (4) 調査・研究事業は、主に地域包括支援センター実態調査のサポート活動に力を注ぎました。
- (5) 京都市地域包括支援センターの実態調査の報告書をまとめ、京都市に提言しました。
- (6) 「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」に参画して、シンポジウムを継続開催し、京都市の介護保険行政に対して提言しました。

2. オンブズマン養成事業（研修会等開催事業）

(1) 計画の達成度

- ①介護保険制度のオンブズマン養成事業としての研修会事業は、市民目線に立った諸活動ができる専門性の高い人材育成を目指し取り組みました。
- ②研修会は、会員の要望に基づき、介護保険制度や高齢者問題に関する基礎的な問題について研修に取り入れました。また、地域や高齢者のかかえる問題をいろんな角度から取り上げました。基礎講座として2回、9月に「認知症、もしもの時に備えて～本人として、家族として～」、2月に「成年後見人のここが知りたい」を開催しました。
- ③昨年度から実施している京都市域の地域包括支援センター実態調査の中間報告を研修会で速報的に行うとともに、調査後はそこから得た課題を研修テーマとして内容を深めました。
7月の中間報告では、同実態調査に関わるプロジェクトチームのメンバーが、項目ごとに集計値から見える現状と課題を中心に発表しました。
11月には、浜岡政好先生（佛教大学名誉教授）をお招きして「地域包括支援センターのあり方」について研修しました。
- ④研修会では、前年度と同様に講演のあとグループに分かれて意見交換を行うなど、参加型で行いました。講演を聴いた後に感想を言い合ったり意見交換したりすることは、会員同士の交流にもなり大変有意義な場となっています。また、テーマによっては質問用紙を用意し、講師に一人一問を提出して答えてもらう形の研修会も実施しました。
- ⑤多くの一般市民の参加を得られるよう、内容や広報にも工夫して取り組みました。毎回チラシを作成し、ひと・まち交流館京都の館内ほかにチラシを配架しています。
京都新聞まちかど欄、ふれあい欄には毎回掲載、京都市民活動総合センターのポータルサイトへ掲載しています。
研修会の月平均参加者数は29.8名で、昨年度とほぼ同じです。

(2) 2022年度研修会一覧

回数	実施日	テーマ	講師	会場	参加者数
第118回	4月16日	野外研修会 和束町 特養施設「わらく」見学と 施設長の話	稲塚功さん (特別養護老人ホーム 「わらく」施設長)	京都府相楽 郡和束町	17名
第119回	6月18日	コミュニティカフェから作る多世代 の支え合い	片桐直哉さん (くじら雲理事長・ 京都市議・会員)	ひと・まち 交流館京都	29名
第120回	7月16日	京都地域包括支援センター実態 調査 中間報告会	当会プロジェクト チーム	ひと・まち 交流館京都	25名
第121回	9月23日	＝基礎講座＝ 認知症、もしもの時に備えて ～本人として、家族として～	高見国生さん(認知 症の人と家族の会 前代表理事)	ひと・まち 交流館京都	31名
主催: よりよい 介護を つくる 市民ネッ トワーク	10月22日	第7回 だまったらあかん シン ポジウム 安心して暮らせる町京都って? ○基調講演 ○パネルディスカッション 総合事業を振り返って * 地域包括支援センター実態調 査(総合事業)についての報告	日下部雅喜さん 新井康友さん 鈴木太一さん 越野稔さん 藤倉牧子さん * 当会 中川慶子	ひと・まち 交流館京都	約90名
第122回	11月19日	これからの地域包括支援センター のあり方を考える ～京都市地域包括支援センター 実態調査の報告を受けて～	浜岡政好さん (佛光大学名誉教授・ 京都市高齢者施策推 進協議会 前会長)	ひと・まち 交流館京都	38名
第123回	1月28日	私が精神科医の道を選んだ理由 後半は会員交流会	才村泰生さん (やすおクリニック院 長・西山病院医師)	ひと・まち交 流館京都	47名
第124回	2月18日	＝基礎講座＝ 成年後見人のここが知りたい ～成年後見制度の仕組みと現状から～	服部豊さん (FP office きずな代表)	ひと・まち 交流館京都	26名
第125回	3月18日	民間企業の介護ビジネスへの参 入は何をもたらしたか?	松田貴弘さん (京都社会保障推進 協議会介護部会長)	ひと・まち 交流館京都	26名

※例年5月の総会時に実施している記念講演は、新型コロナウイルス感染症のため開催せず。

かかわる会の研修会

**京都市地域包括支援センター
実態調査 中間発表会**

調査から見たもの、現状、課題、現場の生の声!

7月16日(土)
13:30 - 16:30

会場: ひと・まち交流館 京都

NPO法人 きょうと介護保険にかかわる会

かかわる会の研修会 第121回

認知症・もしもの時に備えて
～本人として、家族として～

日本は世界有数の長寿国ですが、認知症有病率は先進国35ヶ国の中でトップです。あなただけが家族や自分自身を認知症にさらしたくないと思いませんか? 認知症になっても生きやすい社会を作るために家族の力をかり上げ、金と時に40年間争って来た高見国生さんといっしょに、認知症のある暮らしについて考えてみましょう!

認知症の人と家族の会
前代表理事
高見 国生 さん

9月23日(金祝)
13:30 - 16:30

会場: ひと・まち交流館 京都 3階 第5会議室

NPO法人 きょうと介護保険にかかわる会



研修後の新年交流会 (1月28日)

3. 介護・福祉サービス第三者評価事業

(1) 介護・福祉サービス第三者評価事業の実施状況

2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けて一時調査活動が休止しましたが、その影響で下期には依頼が殺到、最終的には前年度からの繰越分（6件）を含めて、年間25件の第三者評価事業を受託しました。受診事業所には、「ポジティブアシスト」を旨とする、きょうと介護保険にかかわる会の第三者評価事業のリピーターも多く、「かかわる会の伴走型の調査活動によって勇気づけられた」という嬉しい感想もいただいています。

2022年度第三者評価事業 実施一覧（2023年3月31日現在）

	法人名	事業所名	主な受診事業	訪問調査日	調査者数	審査日
1	社会福祉法人 若竹福祉会	八幡市デイサービスセンター やまばと	通所介護	4月19日(火)	3人	6月 8日(水)
2	一般社団法人 和音ねっと	ヘルパーステーション わをん	訪問介護	5月 9日(月)	2人	6月29日(水)
3	社会福祉法人 フジの会	特別養護老人ホーム フジの園	介護老人福祉施設	5月18日(水)	3人	6月29日(水)
4	社会福祉法人 京都福祉サービス 協会	京都福祉サービス協会 高野事務所	居宅介護支援事業所	5月25日(水)	2人	7月19日(金)
5	社会福祉法人 フジの会	モーツァルト しずかこども園	保育所	6月11日(土)	3人	7月27日(水)
6	一般社団法人 和音ねっと	ヘルパーステーション わをん	居宅介護・重度訪問介護・同 行援護	6月14日(火)	3人	8月 8日(火)
7	社会福祉法人 北丹後福祉会	特別養護老人ホーム 久美浜苑	介護老人福祉施設	10月11日(火)	3人	11月25日(金)
8	社会福祉法人 北丹後福祉会	久美浜苑 くまのの里	地域密着型介護老人福祉施 設入所者生活介護	10月11日(火)	3人	11月25日(金)
9	社会福祉法人 北丹後福祉会	久美浜デイサービスセンター	通所介護	10月12日(水)	3人	11月30日(水)
10	社会福祉法人 北丹後福祉会	佐濃デイサービスセンター	通所介護	10月12日(水)	3人	11月30日(水)
11	社会福祉法人 北丹後福祉会	久美浜居宅介護支援事業所	居宅介護支援	10月12日(水)	2人	12月 2日(金)
12	社会福祉法人 和案会	特別養護老人ホーム わらく	介護老人福祉施設	11月 2日(水)	3人	12月14日(水)
13	社会福祉法人 成光苑	岩戸ホーム	介護老人福祉施設	10月19日(水)	3人	12月19日(月)
14	ソーケンメディカル 株式会社	ソーケンメディカル株式会社	福祉用具貸与	11月16日(水)	2人	12月23日(金)
15	株式会社 銭形	訪問介護 銭形	訪問介護 介護型ヘルプサービス	11月18日(金)	2人	2023年 1月17日(火)
16	社会福祉法人 フジの会	プラスしこうえん	軽費老人ホーム	11月23日(水)	3人	2023年 1月 6日(金)
17	社会福祉法人 くらしのハーモニー	デイサービスセンター ハーモニーこはた	通所介護	11月29日(火)	3人	2023年 1月13日(金)
18	社会福祉法人 浩照会	特別養護老人ホーム あじさい園	介護老人福祉施設	2023年 1月24日(火)	3人	2023年 3月9日(木)
19	社会福祉法人 清和園	特別養護老人ホーム 鳥羽ホーム	介護老人福祉施設	2023年 1月27日(金)	3人	2023年 3月13日(月)
20	社会福祉法人 フジの会	モーツァルト七瀬川つつみ	共同生活援助	2023年 1月31日(火)	3人	2023年 3月10日(金)
21	社会福祉法人 和光会	デイサービスセンター 梅林園	通所介護	2023年 2月 7日(火)	3人	2023年 3月 3日(金)
22	社会福祉法人 不動園	障害者支援施設 天ヶ瀬寮	障害者支援施設	2023年 2月17日(金)	3人	2023年 3月31日(金)
23	社会福祉法人 フジの会	みやびのそのデイサービスセンター	通所介護	2023年 2月17日(金)	3人	2023年 3月27日(月)
24	医療法人社団 都会	訪問看護ステーション にしがも	訪問看護ステーション	2023年 3月 8日(水)	2人	2023年 4月21日(金)
25	医療法人 啓信会	介護老人保健施設 ひしの里	介護老人保健施設	2023年 3月27日(月)	3人	2023年 5月 1日(月)

(2) 調査者のスキルアップ

①京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構主催のフォローアップ研修への参加。

2023年3月27日(月)～4月30日(日)。YouTube の配信とレポート提出。研修内容が新年度から変更される調査項目の説明であるため、調査者全員の受講を推奨しました。

②調査者全員に対する内部研修はできませんでしたが、新任調査者の研修を実施しました。

③タイムリーな介護保険情報を直接、調査者に向けて発信することはできていません。会報に「介護保険ホットNEWS」のコーナーができたことや、新たに始めた会員向けメール配信が、その一助となっています。

(3) 人材の確保

①新規評価調査者養成研修を2名の会員が修了され、調査者に加わりました。

②福祉サービス等評価調査者（障害分野）養成研修

11月14日(月)～12月23日(金)。YouTube 配信。既存調査員のうち3名が受講、修了しました。

③第三者評価調査者登録者数（2023年3月31日現在）

介 護	30人
障 害	14人
保 育	13人
児童館	4人

④審査会委員登録者数 12人

(4) 第三者評価応募事業所の拡大

①現在、第三者評価事業の広報は、京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構を通して周知をはかるのみで、独自の広報はできていません。しかし、2022年度は受診希望が多かったため、現行の体制では受けきれず、やむなく断わることもありました。

②今年度、下半期に受診が集中したことにより、調査員、審査員の人員不足を痛感しました。第三者評価事業の事務局体制も一人担当で、バックアップがなく脆弱です。体制の強化が急務と考えています。

4. 調査・研究事業

2022年度の活動は、当会の総力を挙げて取り組んだ「地域包括支援センターの実態調査」活動のまとめと、「報告書」の作成が中心となりました。その取組みの中で、介護・福祉における行政の窓口としての「地域包括支援センター」の役割を再認識できました。

また、「史上最悪の介護保険制度改定を許さない！！」11月18日院内集会に向けて開催された、連続オンライン講座にメンバー各自が参加し、中央政府レベルでの介護保険の動向について学習しました。

5. 広報・啓発事業

(1) 会報の発行

①概要

- ・発行回数：年6回（偶数月）
- ・体裁・ページ数：A4版 8ページ
- ・発行部数：400部
- ・配布先：会員、介護・福祉サービス第三者評価受診事業所、京都市内地域包括支援セン

ター(61カ所)、向日市・長岡京市・大山崎町・宇治市地域包括支援センター(計16カ所)、関係行政機関や関係団体、当会の活動に助言や指導をいただいている方、ひと・まち交流館京都内の市民活動総合センター、福祉ボランティアセンターの展示書架等。

②編集会議

毎月、広報グループによる編集会議を開催しました。奇数月の編集会議では前号の反省点を話し合い、また次号の編集企画について意見交換して、原稿依頼の内容を確認しました。

発刊月(偶数月)月初めの編集会議では印刷原稿についての疑問点や間違いを指摘し、修正を確認し合いました。編集会議で意見を出し合うことで、より魅力のある内容と見やすい体裁を実現できました。

③掲載内容

「地域包括支援センター実態調査」の活動報告、調査結果の中間報告、報告書を元にした研修会報告、京都市への提言・懇談会報告等を継続して会報に掲載することで、調査活動を会として取り組むことに貢献しました。また新しい企画としては127号より全国有料老人ホーム協会に了解を得て、シルバー川柳を3句ずつ掲載しましたが軽妙な内容が好評でした。

■各号のページ建てと主な内容

号	128	127	126	125	124	123
発行日	2023.2.3	2022.12.2	2022.10.7	2022.8.5	2022.6.3	2022.4.8
1頁	戦争には絶対荷担したくない(梶) / 目次	ウトロから学びました(梶) / 目次	介護保険史上最悪の改定を危惧(梶) / 許さない! 会報告(萩原) / 目次	いま大葬儀をするときだろうか(梶) / 目次	2022年度通常総会3年ぶりに対面開催(中川) / 目次	先見性あった奈倉さん(梶) / 目次
2頁	包括調査 京都市への提言と意見交換報告(冬木)	11月研修会報告(萩原)	9月研修会報告(栗山)	7月研修会報告(中川)	かかわる会組織・業務担当図 / 退任・就任挨拶	2月研修会報告(萩原)
3頁	包括調査 京都市への提言と意見交換報告 / 報告書配布先一覧(冬木)				地域包括支援センター実態調査活動報告No.5 / 調査者の感想	2月研修会報告(萩原) / 地域包括支援センター実態調査活動報告No.4
4頁	1月研修会報告(小中)	介護保険ホットNews 次期改定と反対運動の動向(小栗)	投稿: 介護施設ではないサ高住でコロナとどう向き合ったのか(宮本崇義)	6月研修会報告(吉川)	京都でケアラー支援条例をつくらう!(津止正敏)	3月研修会報告(冬木)
5頁	1月研修会参加者アンケート / 新春会員交流会報告(正木)	介護保険ホットNews 院内集会報告(萩原) / 京都高推協報告(冬木)			私の介護体験(高松) / ときどき横浜だより(清水潤)	京都市と市民ネットワークの懇談会報告(中川)
6頁	介護保険ホットNews(小栗)	だまったらあかん! シンポ報告(冬木)	特別寄稿: さわやか福祉財団(蒲田尚史) / 介護保険ホットNews(小栗)	介護保険ホットNews(小栗)	4月研修会報告(正木)	4月研修会案内 / 本の紹介(小中)
7頁	私の介護体験(桜井不二美) / 2月・3月研修会案内	私の介護体験(佐竹) / 1月研修会案内	私の介護体験(田村) / 11月研修会・10月シンポ案内	私の介護体験(萩原) / 9月研修会・10月シンポ案内	4月研修会報告(正木) / 6月・7月研修会案内	私の介護体験(高岸) / 映画の紹介(小栗)
8頁	会員リレーえっせい(深坂妙子) / 編集後記(小中) / シルバー川柳	会員リレーえっせい(有馬忠広) / 編集後記(栗山) / シルバー川柳	会員リレーえっせい(折坂義雄) / 編集後記(正木)	会員リレーえっせい(山田裕子) / 編集後記(小栗)	会員リレーえっせい(梶寿美子) / 編集後記(河原)	会員リレーえっせい(河原隆司) / 編集後記(冬木)

※主な内容のうち、研修会については「2. オンブズマン養成事業」をご覧ください。

(2) ホームページ・SNSの管理

2019年9月より <https://npokaigo.or.jp> のドメインでスタートした会の公式ホームページに研修会の予告、報告、会報の発行について掲載しました。WordPress という仕組みを使っているため複数担当者での編集が可能です。一定の研修が必要であることから担当者の複数化は実現していません。当会の Facebook ページも開設していますが、ホームページとのリンクが上手くいかず、今のところ情報の更新が余りできていないのが課題です。

(3) 研修会の広報について

各回の研修会チラシの印刷原稿を作成し、外注したチラシを会報と共に発送したり、ひと・まち交流館に配架したりしました。また京都市福祉ボランティアセンターや長寿すこやかセンターの情報欄への掲載はスケジュール的にも難しく、掲載できませんでした。

(4) 啓発活動の具体化

11月より、介護保険や介護サービス、高齢者施策等についての最新情報を会員にメール配信し始めました。また会報の「介護保険ホット News」では介護保険改定の動きをはじめ最新情報を掲載することに努めました。

6. 地域包括支援センター実態調査の実施（新規事業2021年度～2022年度）

(1) 調査および「京都市地域包括支援センター実態調査 2022 報告書」の刊行

2021年度の総会で決定した上記調査は、当会会員によるプロジェクトチーム（メンバー22名）を結成して取り組みました。調査の目的、調査項目、調査対象、実施の方法、集計方法、実地聞き取り調査等々について検討を重ね、多くの地域包括支援センターの協力を得て、コロナ禍の2022年1月～4月に本調査と聞き取り調査を実施しました。

2022年10月に報告書（98頁、700部）を刊行しました。報告書は京都市行政、高齢者施策推進協議会、京都市会各会派をはじめ市民、関係機関、団体、報道機関、関係者に配布しました。

(2) 関連研修会の開催

この間、関係機関より多くの示唆を得、また私たちも地域包括支援センターについての研修を重ねました。報告書の完成後には、「これからの地域包括支援センターのあり方」について浜岡政好先生を講師に研修会を持ちました。浜岡先生からは「京都市民が10年の期間をおいた定点調査活動を行い、地域包括支援センターの現状を市民目線で検証することはすごいこと」と評価していただきました。

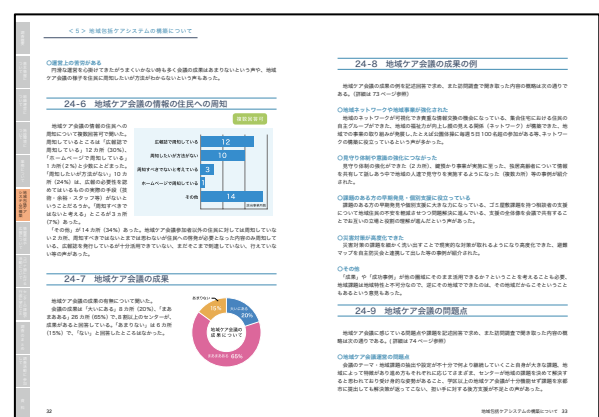
(3) 京都市長への提言

調査で得られた意見や要望等は6項目にまとめ提言書として2003年1月に京都市長に提出しました。提言の内容は以下の通りです。

- ①直営で行政区単位の、基幹型地域包括支援センターの創設
- ②行政窓口での市民対応の改善
- ③地域支援事業の見直し
- ④センターの職員確保と事務の効率化
- ⑤住民参加の地域包括ケアシステム構築へ
- ⑥アフターコロナに向けた積極的支援を

(4) その他

なお、本事業に対して公益財団法人大同生命厚生事業団から「シニアボランティア活動助成金」をいただきました。



7. 関係諸団体との連携強化

2016年12月に発足した「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」の構成5団体を始め他団体や事業所との連携に努めました。同会主催の第7回シンポジウムは2022年10月22日に開催しました。（詳細は「2. オンブズマン養成事業」をご参照ください）

このシンポジウムに寄せられた市民や現場の声をまとめ、2023年1月17日に京都市長に「提言書」を提出し、保健福祉局介護ケア推進課長、長寿企画課長らと話し合いの場を持ちました。

シンポジウムの報告書（700部）を2023年3月に発行し「京都市高齢者施策推進協議会」の委員を始め、市議会、全地域包括支援センター、関係機関や希望する市民に配布しました。

また、市会の福祉教育委員会の各派の議員と懇談の場を持ち、当ネットワークの活動や提言した内容について意見交換し、さらに介護保険制度の改善等について訴えました。



8. 会の運営（事務局）

1) 会員の状況

会員数は、前年度末が86名。この1年の新入会員9名、退会者4名で、2023年3月末現在の会員数は91名になりました。広く外に向けて入会を呼びかけるような活動はできていませんが、研修会の参加を契機に入会する人や、会員の紹介で入会する人で増加しています。

新型コロナウイルス感染症への懸念から、会員同士の懇親の場も持てず、4月の研修で行った和束へのバスツアーと1月の研修時の交流会が数少ない会員同士の交歓の機会でした。

(2) 財政基盤の強化

会費収入と第三者評価事業の収益、寄付金収入が当会の財政基盤となります。今年度は第三者評価事業の件数が多く、寄付金や調査活動の助成金を得られたことで良好な決算状況になりました。ただ、第三者評価事業は社会の変動に左右され安定的とはいいきれず、新たな財源の模索など、引き続き財政基盤の強化について検討が必要です。

また、昨年6月から「ひと・まち交流館 京都」の会議室が有料化され、市民活動の停滞を招いていますが、ほぼ毎月研修会を実施している当会としても、大きな負担増となっています。

(3) 理事会等の開催

理事会は毎月ほぼ全員の理事が出席して月1回（原則第1木曜日）定期開催してきました。新型コロナウイルスの流行以降、オンライン会議の活用も増えてきています。

毎月の理事会では研修会の内容の検討、三評関係の課題、会報記事の検討など、その時々の問題を広く討議していますが、中長期的な課題に十分な時間をとれない状況がありました。